

市貝町サシバの里づくり 基本構想に係る提言書

平成30年3月

持続可能な日本一サシバが子育てするまちづくり委員会

はじめに

平成26年3月に策定された「市貝町サシバの里づくり基本構想（以下「基本構想」）」により、「サシバのすむ自然豊かな里地里山」を土台として、環境保全を中心に農業、商工観光を主要な柱とし、町として「サシバの里」づくりを推進していくことを示し、目指すべき将来像として、「サシバが舞う豊かな里地里山環境を基盤に、環境と経済が両立するまち」を掲げ、その将来像を実現するため、行動計画と重要かつ緊急性の高い4つの重点事業を位置づけました。

サシバの里を守るための「サシバの里」里地里山生態系保全事業、里地里山観光まちづくりで活性化するための道の駅「サシバの里いちかい」運営事業、地域ブランドを活かすための「サシバの里」ブランド事業、これらの事業を包括的かつ持続的に推進するための「サシバの里」づくり推進事業、の4事業を「サシバの里」づくりの柱として、中期的な視点で「サシバの里づくり」を推進してきました。

環境省は、地域の里地里山が抱える課題に対し、「多様な主体の連携・協働、新たな共同性の創造による『新たな共同利用』のしくみづくりが重要なポイントになる。それによって里地里山の維持・再生が進むだけでなく、多様な主体の参画を通じて里地里山の価値が再認識され、広く活動への関心・理解が高まることや、さらに地域の里山の魅力を活かした交流や新たなビジネスなどが展開されることで、地域全体の活性化につながっていくことなども期待される。」としています。当町においても、「新たな共同利用のしくみ」づくりが重要な課題となっています。

本提言書は、構想期間を5年間とする「市貝町サシバの里づくり基本構想」の改定に向け、「持続可能な日本一サシバが子育てするまちづくり委員会（以下「まちづくり委員会」）において、構想に掲げるこれまでの重点事業の進捗状況の確認と評価、課題などを協議し、まとめたものです。

第1に「重点事業に係る評価と課題」として、これまでの4つの重点事業に対する評価と課題をまとめました。第2に「委員会から4つの提言」として、サシバの里で持続可能なまちづくりを目指すための提言を簡潔にまとめました。

この提言内容を踏まえ、市貝町のサシバの里づくりが確実に前進していけるような「市貝町サシバの里づくり基本構想」の改定と実施計画の策定を期待します。

平成30年3月27日

持続可能な日本一サシバが子育てするまちづくり委員会

I 重点事業に係る評価と課題

まちづくり委員会では、基本構想の評価及び改定の検討に際し、第5章に掲げる4つの重要かつ緊急性の高い重点事業について、それぞれの事業の実施状況を取りまとめ現状を把握するとともに、どの程度達成されているか等について議論し、各事業の評価と今後の課題について以下のとおり取りまとめました。評価に際しては、3段階（◎、○、×）で評価しています。

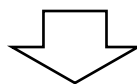
◇重点事業1 「サシバの里」里地里山生態系保全事業

「サシバの里」づくりの根底となる「サシバが舞う豊かな里地里山環境」の保全に努める事業

1-1 生態系保全活動の場の創出

町の中中部・北部を中心に生態系保全活動の場を広げ、サシバをシンボルとした里地里山生態系の保全を進める。耕作放棄地を復元して湿地として管理する。水田周辺の樹林地を動植物が生息・生育しやすい森として管理する。同時に、子どもたちの環境学習の場、町民や都市住民を対象とした保全活動体験の場などのさまざまなイベントの場としても活用できるような整備を行っていく。推進にあたり、とちぎの元気な森づくり県民税等も積極的に活用していく。

実施状況	<ul style="list-style-type: none">・NPO法人オオタカ保護基金（生き物観察、自然観察、里山保全活動、里山整備、自然体験、農業体験、生き物調査）・サシバの里協議会（都市農村交流事業、守人事業、キンブナプロジェクト）・トチギ環境未来基地（里山整備、自然体験）・爽菜農園（野草摘、農業体験）・おかえりの丘（農業体験、ブルーベリー収穫）・芳賀農業振興事務所（生き物観察会、エコ農業とちぎ）・日本野鳥の会栃木（生き物観察会、環境整備）・多面的機能支払交付金活用団体（6団体）（生き物調査）・とちぎの元気な森づくり県民税事業活用団体（2団体）（生き物調査）・里地里山生態系保全活動事業基金（刈生田地区）・明るく安全な里山林整備事業・多面的機能支払制度交付金事業
------	--

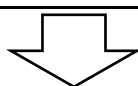


評 価 (○)	ボランティア団体や任意団体、NPO 法人など多様な主体の取り組みがあることは評価できるが、町全体として全面的にできていない。
課 題	① 町と地域住民で一緒に活動していくことが大切なので、市民団体や企業がもっと協働していく必要がある。 ② 環境保全の取り組みについて、さらに働きかけをしていく必要がある。 ③ 活動が足りない地域の取り組みに配慮していく必要がある。 ④ 荒れた谷津田の改善は難しい課題であるが進めていく必要がある。

1-2 自然環境調査および保護のための施策

町内に生息・生育する動植物の分布について、専門家の協力や町民との協働をもとに現地調査を行って最新のデータを収集し、町の自然環境の現況を把握し、希少動植物の保全のための条例等の必要性について検討していく。

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO法人オオタカ保護基金（サシバの繁殖状況モニタリング調査） ・ サシバの里協議会（キンブナプロジェクト） ・ 爽菜農園（生き物観察） ・ 芳賀農業振興事務所（生き物観察会、エコ農業とちぎ） ・ 日本野鳥の会栃木（生き物観察会、環境整備） ・ 「市貝町の文化財と自然」の編集・発刊・配布
------	---



評 価 (○)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の組織での活動は行われているが、保護的な観点からはまだ不十分なところもある。 ・ 調査は実施しているが、結果の分析やそれを踏まえた対策を実施するまでには至っていない。
課 題	① 保全の対象やレベルを決め、戦略的に守っていく必要がある。 ② データを収集するだけでなく、それをまとめたり、分析したりして、具体的な対策を実施できるような仕組みや体制が必要である。 ③ 仕組みや体制づくりには、町や関係団体の支援が必要である。

1-3 「いちかいサシバの里基金（仮称）」の設立

持続的な運営を行うため、道の駅事業やブランド事業の収入の一部を資金として基金を設立し、町からの補助金や寄付金なども募り運用し、事業の円滑な推進を図る。町民主体の協議会などが基金を運用することで、町民が主体となった事業の推進が期待できる。

評価 (×)	未実施のため達成できていない。
課題	今後の方向性を定め、組織づくりとあわせて取り組んでいく必要がある。

◇重点事業2 道の駅「サシバの里いちかい」運営事業

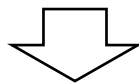
道の駅「サシバの里いちかい」は、「サシバの里」の入り口として、各活動拠点への足掛かりとなるような施設を目指す。近隣の道の駅との差別化やリピーターを増やすために「体験型」道の駅とし、周辺の里地里山などで様々な体験活動を行う。

2-1 展示スペースの設置

「まちおこしセンター」を中心に、「サシバの里」のイメージ映像や、サシバについてのパネル展示、道の駅周辺で観察できる生き物の生体展示を行う。

また、町で見られる生き物たちのリアルタイムな情報を発信し、同時に「サシバの里」づくりのPRコーナーを設け、町の取り組みについても発信していく。

実施状況	生体展示、パネル展示、映像放映 道の駅サシバの里づくりPRコーナー設置事業
------	--

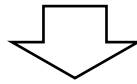


評価 (○)	映像放映やパネル展示、生体展示等を行っているが、改善が必要である。
課題	パネルは同じものが展示されているため、リアルタイムな情報の提供や季節ごとの展示を常設展示とリンクして行えると良い。

2-2 自然体験、農業体験の仕組みづくり

道の駅周辺の里地里山や体験農園を利用して、生き物の観察や、農業体験を行う。

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO法人オオタカ保護基金（生き物観察、自然観察、里山保全活動、里山整備、自然体験、農業体験、生き物調査） ・ サシバの里協議会（都市農村交流事業） ・ 芳賀農業振興事務所（生き物観察会、エコ農業とちぎ） ・ 各種生涯学習団体（生涯学習事業連携講座） ・ 各種地元団体等（ホテル観察会、収穫祭、草刈り、自然観察会、ヘルシーマーケット等） ・ サシバの里木工教室
------	---

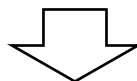


評価 (○)	活動自体は行えているが、道の駅としての情報収集・発信機能はまだまだ不十分である。
課題	道の駅が情報発信の拠点として機能するよう、各団体が連携して取り組む必要がある。また、集合、受付の場所としてもさらなる活用が望まれる。

2-3 里地里山周遊コースの設置

道の駅周辺や町内を周遊し、自然、産業、歴史、文化などが体感できるコースを作る。季節に応じて、テーマを決めたエコツアーなども実施する。

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ サシバの里協議会（縁側めぐり） ・ 市貝町観光協会によるサイクリングマップの作成 ・ 田園ウォーキング ・ レンタサイクルの導入
------	---



評価 (○)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田園ウォーキングや縁側めぐりなど、一定の成果を挙げている。 ・ マップの整備や田園ウォーキングを行うことなど、道の駅の来場者が道の駅周辺を周遊する事業は行われている。
課題	<ol style="list-style-type: none"> ① 道の駅の来場者がどの程度周遊しているのか、レンタサイクルの需要などをもとに調査し把握する必要がある。 ② 遊歩道や案内板の設置など、ハード面の整備が課題である。

◇重点事業3 「サシバの里」ブランド事業

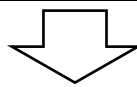
本構想を根底に、地域ブランドとして「サシバの里」ブランドを展開する。

地域ブランドの定義として、「地域発の商品・サービスのブランド化」として農産物を中心とした商品・サービスの「サシバの里」ブランド、「地域イメージのブランド化」として本構想を中心としたまちづくりと位置づけ、2者が相乗効果をもたらすことで地域を豊かにする。地域イメージのブランド化は、本構想全体を推進することで進行し、本事業では「サシバの里」ブランドについての方針を明らかにし、事業の円滑な推進を図る。

3-1 ブランド認定

町で生産される地域発の商品・サービスのブランド化を行い、付加価値を高める。ブランドの認定には、本構想の趣旨・内容に準じた町で安全・安心に作られた農作物とその加工品に限定する。町の特産品などを認定してきた既存の「市貝ブランド」とのすみわけをはっきりさせることで、「サシバの里」ブランドの位置づけを明確にする。

実施状況	・サシバの里ブランド認定（5件） ・市貝ブランド支援事業
------	---------------------------------

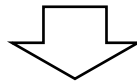


評価 (×)	・サシバの里ブランド認定として5件認定されているが、本来的な意義からみると十分にブランドとして機能していない。 ・付加価値があり消費者に注目されるのがブランドであり、サシバの里ブランドは効果が見られていない。
課題	① ブランド認定品の売り上げの一部を里地里山保全に繋がられるような仕組みづくり、サシバの保護に貢献できるような見直しが必要である。 ②ブランドで成功している例を見習う等工夫が必要である。 ③ブランドとは何かを、方向性も含めもう一度見直さなければならない。 ④目標の設定にあたっては、市貝町まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる数値との整合性をとる必要がある。

3-2 新規商品の開発

産官学連携などの取り組みにより、ブランドに登録された農産物を使用した新たな加工品、商品の開発を行う。開発した商品にもブランド認定を行い、企業や団体とともにブランドの普及を推進する。

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・サシバの里協議会（料理コンテスト、キンブナプロジェクト） ・市貝町地域雇用創造促進協議会（地産農産物を使用した新商品開発、ランチメニュー開発）
------	---

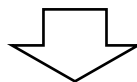


評価 (○)	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省から委託を受けた「市貝町地域雇用創造促進協議会」が地産地消の新商品、ランチメニューを開発するなど、一定の成果をあげている。 ・サシバの里協議会が中心となった「キンブナプロジェクト」により、絶滅危惧種のキンブナの種の保存と活用を図っている。 ・ブランド登録農産物の使用については、未実施となっている。
課題	商工会や酪農組合など、各種団体においても取り組みを行っており、現状として商品開発もされているが、さらに地元が取り組みやすい体制を作っていく必要がある。

3-3 販売網のネットワーク化

ブランド商品について、加工品などを中心に、インターネット販売や外部への出品も可能な限り行う。

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・サシバの里山ショップ（サシバの里自然学校） ・ふるさと納税（株式会社さとふる）
------	---



評価 (×)	<ul style="list-style-type: none"> ・サシバの里山ショップ等、個々のネット販売は徐々に広がっている。 ・ふるさと納税の返礼品として農産物を出荷している。
課題	<ol style="list-style-type: none"> ①個々の販売網ネットワークを繋げる必要性を検討し、どう繋げ活用していくかなど、新しいやり方を模索していく必要もある。 ②ふるさと納税を活用することで、ブランドのPRにも繋げていく。

◇重点事業4 「サシバの里」づくり推進事業

今後の「サシバの里」づくりを包括的かつ持続的に推進するための基盤としての組織づくりや新たな事業の創出を進める事業を展開する。

4-1 活動組織づくり

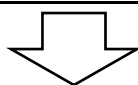
道の駅での活動やブランド事業との連携を図り、地域ぐるみでの保全や各種活動、「いちかいサシバの里基金（仮称）」を運営・活用できる団体（サシバの里づくり協議会（仮称））を設立し、「サシバの里」の包括的なまちづくりを行っていく。母体には、町内外の人たちからなる法人を立ち上げ、規律をもって持続的な運営をしていく。

評価 (×)	構想に掲げる組織「サシバの里づくり協議会」づくりができていない。
課題	①基金も運用できるような組織づくりに取り組んでいかなければならない。 ② 包括的なまちづくりを担えるような組織として設立する必要がある。

4-2 新規事業の創出

里地里山を持続的に利用しながら、収益を上げ、地域を活性化できる新たな事業の創出を図る。梅の里や芝ざくら公園に続く新たなオーナー制度の実施や伊許山園地の利活用、里地里山を使った自然学校などの事業を、地域や民間団体ともに作り上げていく。

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・サシバの里協議会の設立（平成26年） ・サシバの里自然学校の開校（平成28年）
------	---

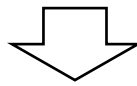


評価 (○)	<ul style="list-style-type: none"> ・サシバの里協議会、サシバの里自然学校を中心に、都市農村交流において一定の成果を挙げている。 ・反面、構想に掲げる新たなオーナー制度の実施や伊許山園地の利活用ができていない。
課題	町内においても新規事業の認知度を高めていき、興味を持ってくれる人や参加してくれる人を増やしていかなければならない。

4-3 人材づくりと地域コミュニティの推進

既存の有識者だけでなく、今後、里地里山における活動を担っていく新たな人材の発掘・育成を進める。特に、観察会やツアーにおけるインタープリターの育成を進める必要がある。そのために、生涯学習講座等と連携して人材育成の講座を開く。また、住民参加・協働を推進するためのワークショップ等を開催し、新たな人材の発掘と住民の意識向上、開かれた地域コミュニティづくりや人のネットワークの構築を推進する。

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・サシバの里協議会による、サシバの里案内人養成講座、観光まちづくり勉強会、トコロジスト養成 ・地方創生加速化交付金を活用した人材のリストアップ ・農業研修生育成
------	--

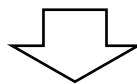


評価 (○)	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで人材育成の講座がなかったことから評価できる。 ・学習の機会が増えているのは評価できる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 人材育成の講座は開催できているが、講座参加者が実際に現場で活躍できる体制を整える必要がある。 ③ ワークショップの開催により、住民の意識向上、コミュニティづくりや人のネットワークの構築を推進する。 ④ 生涯学習講座等との連携を進める必要がある。

4-4 教育活動中での人材育成と子育て環境の充実

幼児教育や学校教育の中で、子どもたちに市貝町の自然と里地里山の大切さに興味を持てるような活動を推進していく。また、豊かな自然を生かした子育てがしやすい環境整備もあわせて推進する。

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・サシバの里協議会（牧場体験、野菜収穫、生き物観察） ・NPO法人いちかい子育てネット羽ばたき（里山整備、生き物観察、森探検） ・保育所・小中学校（収穫体験、野菜づくり、生き物調査、アグリ体験、探鳥会）
------	---

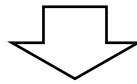


評価 (○)	様々な主体が取り組んでおり、評価できる。
課題	学校教育においては、総合的な学習とも絡めながら、全校において多様な取り組みを行うことが望まれている。

4-5 イメージキャラクターの活用

「サシバの里」ブランドとともに、イメージキャラクター「サシバのサッチャン」、「イッチャン」、「カイちゃん」を活用し、町内のイベントのみならず、県内外の各種イベントにも積極的に参加し、広く周知していく。

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆるキャライベントへの積極的な参加。 ・エア式着ぐるみ導入によりイベント貸し出し機会の増加。 ・ラッピングやグッズ等によるPR。
------	---

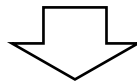


評価 (◎)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年まで400位台であったゆるキャラグランプリにおいて、2017年には55位にランクインしたことで全国的にも目にとまるようになった。 ・エア式着ぐるみを導入し2体体制とし、町外へのイベントにも積極的に参加するなど、キャラクターを使ったPR活動を行っている。
課題	キャラクターを使ったPRグッズはあるものの、道の駅の収益に繋がるようなグッズの開発・製造・販売ができていない。

4-6 町のプロモーション活動の推進

「サシバの里」ひいては市貝町を知ってもらえるようなプロモーションを展開していく。インターネット等も十分活用し、イメージアップを図る。

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・移住促進プロモーション動画の作成。 ・地域おこし協力隊によるHP（つくり手帳）の開設、運営。 ・サシバを縁とする沖縄県宮古島市との交流都市締結。 ・「サシバの里」を取り入れたイベントやPRの促進。
------	--



評価 (○)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会でプロモーションビデオを作成、その他、県の事業にも参加するなど、メディアへの露出も増え、第一段階のプロモーションは成功している。 ・サシバを縁とする交流都市締結等により交流を図っている。
課題	実績を数値化し、状況が具体的に確認できるようになると良い。

◇講評

以上が、基本構想に掲げる重点事業について、委員会の検討結果をとりまとめたものです。各事業の評価については、構想の策定以降、各個人、関係団体の皆さんがそれぞれに特色ある活動を進められ、事業全体としては一定の成果を収めることができていると評価できます。

構想という性質から、評価にあたっての具体的な目標値が定められていないこともあり、評価がしにくいという意見が複数ありました。次期構想に繋げていくためにも、構想の見直しにあわせ、具体的な計画や目標を定めた実施計画の策定が不可欠です。

また、事業評価において「×」とした事業については、構想の根幹を成す重要な事業であることから、実現に向けた具体的な取組について検討されることが望まれます。

Ⅱ 委員会から4つの提言

提 言

「サシバの里」で持続可能なまちづくりを目指すために

1 構想を包括する組織づくりに努めること。

個々の取り組みは進んでいますが、個別の活動に依存し、連携や統括の取り組みが不足しており、広まりが見えていないのが実情です。

構想に基づいたまちづくりの推進には、実働部隊となる組織（町と任意団体、NPO 法人、企業、学術機関等が相互協力できるネットワーク機関をつくることが望ましい）が必要不可欠であり、構想を包括し、基金を運用できる組織づくりに努めてください。

2 行政(町)内部の推進体制を整備すること。

構想を包括する組織づくりを進めるためには、役場内に担当する部署が必要です。現在の町の体制は、内容により部署が分かれており、担当部署を置いていないことが妨げになっています。サシバの里でまちづくりを進めるためには、庁内体制（サシバの里推進課、係、担当などの設置）を整備し、行政(町)が積極的に取り組んでいく必要があります。

3 次期構想の改定にあたり、実施計画を策定すること。

構想に掲げる4つの重点事業の施策を具体化し、着実に進めていくためには、事業主体、事業目標、事業内容、年次計画等を明らかにした実施計画の策定が不可欠です。

次期構想の改定にあわせ、実施計画を策定することを求めます。

4 ブランド事業を一から見直すため、検討チームを設置すること。

ブランド事業の核となる、平成28年8月にスタートした「サシバの里ブランド」は、現在5件の認定を受けているものの、ブランドとして機能しているとは言えません。

「サシバの里ブランド」を推進するためには、ブランドの定義を含め、一から見直しが必要であり、町だけでなく、関連する生産者、販売者、消費者、有識者も交えた検討チームの早期設置を求めます。